

桜美林大学 加齢・発達研究所

平成 22 年度 研究活動一覧

<著書>

- 1) 長田久雄, 長田由紀子: 7 章 中年期における生活の質を高める支援. (岡堂哲雄監修, 廣瀬清人編) 生活の質を高める教育と学習: よりよいヒューマン・ケア実践を目指して, 看護・介護・保育の心理学シリーズ 4, 85-103, 新曜社, 東京, 2011.
- 2) 長田久雄, 堀内ふき, 大淵律子, 諏訪さゆり: 高齢者の理解とコミュニケーション. 老年看護学 - 高齢者の健康と障害 -, 42-45, メディカ出版, 東京, 2011.
- 3) 塩谷有二, 杉澤秀博, 武田丈編: 社会調査の基礎. ミネルヴァ書房, 京都, 2010.
- 4) 生活・福祉環境づくり 21・日本応用老年学会編 (編集委員長: 柴田博, 編集委員: 渡辺修一郎, 他): 高齢社会の「生・活」事典. 社会保険出版社, 東京, 2011.
- 5) 直井道子・中野いく子: I 高齢社会の進展・II 高齢者と家族. よくわかる高齢者福祉, 2-15・16-29, ミネルヴァ書房, 京都, 2010.
- 6) 直井道子: 総論 戦後日本の社会変化と福祉の変化 (直井道子・平岡公一編) 講座社会学 11 福祉, 1-35, 東京大学出版会, 東京, 2010.
- 7) 直井道子: 家族-親族関係 (大内尉義・秋山弘子編著) 新老年学 第 3 版, 1675-1683, 東京大学出版会, 東京, 2010.
- 8) 柴田博: メタボ基準にだまされるな. 医学同人社, 長野, 2011.
- 9) 仙波由加里: 第 2 章各論-1. 生殖補助医療・2. 人工妊娠中絶. (箕岡真子編著) 医療経営士テキスト 生命倫理/医療倫理 医療人としての基礎知識 初級, 52-60, 日本医療企画, 東京, 2010.
- 10) 仙波由加里: 家族をつくる 提供精子を使った人工授精で子どもを持った人たち. (ケン・ダニエルズ: Building a family with the assistance of donor insemination. Christchurch, Dunmore Press, 2004.) 人間と歴史社, 東京, 2010.
- 11) 久喜 美知子: 公衆栄養プログラム. (梶本雅俊・他 編) コンパクト公衆栄養学, 32-41, 朝倉書店, 東京, 2010.

## <論文>

- 1) 芳賀 博：介護予防の現状と課題. 老年社会科学, 32(1) : 64-69, 2010.
- 2) 堀内裕子, 柴田博, 渡辺修一郎, 芳賀博：企業における高齢者関連の社会貢献活動－現状と今後の課題－. 応用老年学, 4(1) : 82-90, 2010.
- 3) 高橋光子, 荒木厚, 渡辺修一郎, 芳賀博, 金原嘉之, 田村嘉章, 千葉優子, 森 聖二郎, 井藤英喜, 柴田博：高齢糖尿病患者の身近な社会参加は生活満足度と関連する. 日老医誌, 47 : 140 - 147, 2010.
- 4) 本田春彦, 芳賀博：地域在宅高齢者における自主活動への参加状況と心理社会的健康および生活機能との関連. 日本公衆衛生学会誌, 57 (11) : 968-976, 2010.
- 5) 上出直人, 柴 喜嵩, 高橋香代子, 稲葉康子, 芳賀 博：日本の地域在住高齢女性における国際版転倒関連自己効力感尺度 (the Falls Efficacy Scale-International) の信頼性と妥当性. 総合リハビリテーション, 38 (11) : 1063-1069, 2010.
- 6) 花里陽子, 芳賀 博：都市部における要介護独居高齢者の生活満足度に関する要因. 老年学雑誌, 1 : 55-69, 2011.
- 7) 亀井智子, 梶井文子, 糸井和佳, 小坂井留美, 新野直明：地域在住高齢者を対象とした Home hazard modification program の効果. 老年看護学, 14(2) : 42-49, 2010.
- 8) 新野直明：転倒の心理的影響－転倒恐怖感に関する疫学的検討－. 老年社会科学, 32 : 144, 2010.
- 9) 亀井智子, 梶井文子, 山本由子, 新野直明：都市部における世代間交流と看護支援 生き生きネット No. 7. 聖路加看護大学老年看護学, 2010.
- 10) 八島妙子, 新野直明：地域在住高齢者の抑うつと生活リズムの関連. 日本未病システム学会雑誌, 15(2) : 197-199, 2010.
- 11) 長田久雄, 鈴木貴子, 高田和子, 西下彰俊：高齢者の社会的活動と関連要因－シルバ－人材センターおよび老人クラブの登録者を対象として－. 日本公衆衛生雑誌, 57(4) : 279-290, 2010.
- 12) 吉江妙実, 兪今, 長田久雄：高齢領域における音楽療法士の精神的自立性と他専門職との連携の関連. 応用老年学, 4(1) : 51-59, 2010.
- 13) 高橋亮, 菊池和美, 長田久雄：リハビリテーションの視点からみた看護学生と作業療法学生による牽引療法中の入院児への遊びの援助の比較に関する一考察. リハビリナース, 4(1) : 94-99, 2011.
- 14) 杉澤秀博, 杉原陽子：特定高齢者における介護予防サービスへのアクセスの阻害要因. 厚生指針, 58 (7) : 6-12, 2011.
- 15) 小浦さい子, 杉澤秀博：摂食・嚥下障害を伴う施設入居高齢者に対する介護職員の食事介助体験の心理過程 特別養護老人ホームの場合. 老年学雑誌, 1 : 15-27, 2011.
- 16) 徳田直子, 杉澤秀博：女性定年退職者の退職後の楽しみ・生きがい 現役時代の経験との関連について. 老年学雑誌 1 : 39-54, 2011.

- 17) 小林由美子, 杉澤秀博: 介護付有料老人ホームへの早めの住み替え後の子どもからの情緒的支援 居住者の視点による質的検討. 社会福祉学, 51(2): 70-82, 2010.
- 18) 北島洋美, 杉澤秀博: 認知症末期にある特別養護老人ホーム入居者に対する介護スタッフのケアプロセス. 社会福祉学, 51(1): 39-52, 2010.
- 19) 田代和子, 杉澤秀博: 高齢者と家族介護者からみたデイサービス利用・非利用に関連する要因-パネル調査の分析を通して. 老年社会科学, 32(1): 3-13, 2010.
- 20) 渡辺修一郎, 熊谷修, 柴田博: 地域高齢者の栄養改善の介入研究. 日本老年医学会雑誌, 47(5): 422-425, 2010.
- 21) 齋藤崇志, 平野康之, 金子弥生, 大森祐三子, 大森豊, 渡辺修一郎: 要介護高齢者を対象とした浴槽移乗動作を模した側方またぎ動作能力測定における検者内信頼性, 検者間信頼性の検討. 理学療法科学, 25(6): 983-986, 2010.
- 22) 渡辺修一郎: 高齢者の生活機能と食. Geriatric Medicine, 48(7): 889-894, 2010.
- 23) Ken Kimura, Shuichi Obuchi, Takeshi Arai, Hiroshi Nagasawa, Yoshitaka Shiba, Shuichiro Watanabe and Motonaga Kojima: The Influence of Short-term Strength Training on Health-related Quality of Life and Executive Cognitive Function. Journal of Physiological Anthropology, 29(3): 95-101, 2010.
- 24) 小川晃子, 直井道子・他: 「ICTを活用した高齢者生活支援型コミュニティづくり」プロジェクト実践報告. 岩手県立大学社会福祉学部紀要, 13: 65-69, 2010.
- 25) 新井健司, 柴喜崇, 安藤誠, 柴田博: 継続的な訪問リハビリテーションが主介護者の抑うつに与える影響 ストレスプロセスモデルの観点から. 応用老年学, 4: 68-72, 2010.
- 26) 柴田博: 高齢者の食を考える; 序文. Geriatric Medicine, 48: 883-884, 2010.
- 27) 柴田博: 高齢者の食を考える; 高齢者の食生活を考える視座. Geriatric Medicine, 48: 885-888, 2010.
- 28) 柴田博: 高齢者の食を考える; 国民栄養調査からみた高齢者の食生活 年代別のトレンドを踏まえて. Geriatric Medicine, 48: 901-903, 2010.
- 29) 柴田博, 葛谷雅文, 足立経一, 鳥羽研二: 高齢者の食を考える; 高齢者の生活機能に対応した食のあり方. Geriatric Medicine, 48: 951-962, 2010.
- 30) 柴田博: 21世紀における応用老年学の必要性. 公衆衛生, 74: 820-821, 2010.
- 31) 柴田博: マルチからインターへ. 応用老年学, 4: 3-12, 2010.
- 32) 柴田博: 老い考⑦老年学とは. ふれあいケア 11月号. 60-61, 2010.
- 33) 柴田博: 老い考⑧年をとって得るもの, 失うもの. ふれあいケア 12月号, 60-61, 2010.
- 34) 柴田博: 老い考⑨センチナリアンに学ぶ生活の質. ふれあいケア 1月号. 60-61, 2010.
- 35) 柴田博: 老い考⑩高齢者の社会貢献. ふれあいケア 2月号. 60-61, 2010.
- 36) 柴田博: 老い考⑪高齢社会における自立と共同. ふれあいケア 3月号. 60-61, 2010.
- 37) 柴田博: 巻頭言 学際的老年学教育の必要性. Aging & Health, 7:5, 2010.
- 38) Emiko Saito, Seiji Yasumura, Chikako Kaneko, Shouzoh Ueki: Comparison of

characteristics and care-needs certification proportion between participants and non-participants in a geriatric health examination over a 3-year follow-up. Archives of Gerontology and Geriatrics, 2010.

- 39) T. Nomura, K. Nagano, J. Takato, S. Ueki, Y. Matsuzaki, S. Yasumura: The development of a tai chi exercise regimen for the prevention of conditions requiring long-term care in Japan. Archives of Gerontology and Geriatrics, 2010.
- 40) 石毛里美, 柴喜崇, 上出直人, 大塚美保, 隅田祥子: 地域在住虚弱高齢者の身体活動セルフ・エフィカシー向上のための取り組み. 理学療法学 37(6) 417-423, 2010.
- 41) 武藤剛, 佐久田博司, 小宮山撰, 柴喜崇, 福田 倫也: Body Image の改善を目的とした Biofeedback 技術の提案. バイオフィードバック研究, 37(1), pp53-62, 2010.
- 42) 柴喜崇, 大森圭貢: パーキンソン病の動作障害に対する理学療法アプローチ. 理学療法 27(1), 93-97, 2010.
- 43) Yukari Semba et. al, Surrogacy: Donor Conception Regulation in Japan. Bioethics, 24(7) : 348-357, 2010.
- 44) 鶴若麻理, 仙波由加里: 特別養護老人ホームの看取り介護についての入居時の意向確認に関する研究. 生命倫理, 21 : 158-164, 2010.
- 45) 仙波由加里: 代理懐胎禁止をめぐる議論に関する一考. Bioethics Study Network, 9(1) : 2-17, 2010.
- 46) 朝田 圭, 茂木俊彦: 神経難病者の病の受け入れの促進要因に関する研究-脊髄小脳変性症を中心として. ヒューマン・ケア研究, 11(2) : 86-97, 2010.
- 47) 上野佳代: 要介護者とその家族におけるデイサービス利用に対する躊躇する要因. 医学と生物学, 154(9) : 396-401, 2010.
- 48) 北島洋美: 認知症末期にある特別養護老人ホーム入居者に対する介護スタッフのケアプロセス. 社会福祉学, 51 (1), 2010.
- 49) 佐藤可奈, 赤羽克子, 新野 直明: デイサービス利用高齢者における口腔関連 QOL とその関連要因. 聖徳大学人文学部研究紀要, 21 : 7-13, 2010.
- 50) 東方和子: 園芸療法 植物との穏やかな関係が与えるもの. 恵泉女学園大学園芸文化研究所報告: 園芸文化, 7 : 1-11, 2010.
- 51) 徳田直子, 杉澤秀博: 女性定年退職者の退職後の楽しみ・生きがい: 現役時代の経験との関連について. 老年学雑誌, 1 : 39-54, 2011.
- 52) 花里陽子, 芳賀 博: 都市部における要介護独居高齢者の生活満足度に関連する要因. 老年学雑誌, 1 : 55-69, 2011.
- 53) 早川三津子, 杉澤秀博: 任意後見制度利用に至るプロセスの検討; 専門家後見人と契約している利用者に対する質的調査. 日本認知症ケア学会誌, 9(3) : 531-542, 2010.
- 54) 堀内裕子, 柴田 博, 渡辺 修一郎・他: 企業における高齢者関連の社会貢献活動-現状と今後の課題. 応用老年学, 4(1) : 82-90, 2010.

## <学会発表>

- 1) 芳賀博：高齢者の運動と生きがい. 第 52 回日本老年社会科学会, 愛知県大府市, 2010. 06. [教育講演]
- 2) 入江由香子, 植木章三, 吉田裕人, 本田春彦, 河西敏幸, 高戸仁郎, 犬塚剛, 岡田徹, 江端真伍, 芳賀博：地域高齢者の機能的移動能力と地区活動への参加状況との関連. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010. 10.
- 3) 藺牟田洋美, 橋本美芽, 芳賀博, 山崎幸子, 安村誠司, 繁田雅弘：閉じこもりに関する郵送調査における訪問調査応諾者と拒否者の特性比較. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010. 10.
- 4) 荒山直子, 植木章三, 本田春彦, 島貫秀樹, 岡田徹, 江端真伍, 高戸仁郎, 犬塚剛, 河西敏幸, 芳賀博：介護予防事業における継続的な活動支援がボランティア自身に及ぼす影響. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010. 10.
- 5) 植木章三, 本田春彦, 岡田徹, 江端真伍, 河西敏幸, 高戸仁郎, 犬塚剛, 荒山直子, 安村誠司, 芳賀博：地域高齢者における長座位立ち上がり時間の男女別・年齢階級別評価表の提案. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010. 10.
- 6) 本田春彦, 植木章三, 岡田徹, 江端真伍, 荒山直子, 河西敏幸, 高戸仁郎, 犬塚剛, 芳賀博：地域高齢在住者における抑うつ傾向の発生と栄養状態との関係. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010. 10.
- 7) 石原美由紀, 植木章三, 島貫秀樹, 芳賀博：介護予防特定高齢者施策における異なる運動プログラムによる効果の差異. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010. 10.
- 8) 犬塚剛, 植木章三, 河西敏幸, 高戸仁郎, 本田春彦, 荒山直子, 芳賀博：地域在住高齢者における BMI と生活機能および身体機能との関連. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010. 10.
- 9) 兪今, 新野直明, 兪峰, 島田今日子, 芳賀博：高齢者におけるうつ予防プログラムの介入方法の確立とその効果. 第 57 回日本公衆衛生学会, 東京, 2010, 10.
- 10) 花里陽子, 芳賀博：都市部における要介護独居高齢者の生活満足度に関連する要因. 第 23 回日本保健福祉学会, 東京, 2010. 10.
- 11) 安齋紗保理, 柴善嵩, 芳賀博：運動機能の低下に関連する痛みの要素. 第 23 回日本保健福祉学会, 東京, 2010. 10.
- 12) 堀籠はるえ, 佐藤美由紀, 齊藤恭平, 芳賀博, 岡本麗子, 若山好美, 鈴木祐子：郊外地域における住民のグループワークによる高齢者の役割の見直し（第 1 報）－地域住民が高齢者に期待している役割－. 第 23 回日本保健福祉学会, 東京, 2010. 10.
- 13) 佐藤美由紀, 齊藤恭平, 芳賀博, 鈴木祐子, 若山好美, 堀籠はるえ, 岡本麗子：郊外地域における住民のグループワークによる高齢者の役割の見直し（第 2 報）－役割の見直しと実践に向けた具体策の検討－. 第 23 回日本保健福祉学会, 東京, 2010. 10.
- 14) 安順姫, 芳賀博：高齢者の介護予防ボランティア活動への参加頻度に関連する要因.

第 23 回日本保健福祉学会，東京，2010. 10.

- 15) 入江由香子，植木章三，吉田裕人，本田春彦，芳賀博：地域高齢者の自立土と医療費との関連；特定高齢者候補者「基本チェックリスト」を基準にして. 第 5 回日本応用老年学会，仙台，2010. 11.
- 16) 安齋紗保理，柴善嵩，上出直人，新野直明，芳賀博：在宅高齢者の介護予防活動への参加の実態および参加者の特徴. 第 5 回日本応用老年学会，仙台，2010. 11.
- 17) 柴喜崇，上出直人，稲葉康子，安齋紗保理，芳賀博：地域在住高齢者における精神的健康状態と体力要素，痛みによる活動制限及び生活機能との関連. 第 45 回日本理学療法学会（学会特別号 37, P 504），岐阜，2010. 05.
- 18) 安齋紗保理，柴喜崇，植田拓也，芳賀博：運動習慣のある地域在住高齢者における疼痛の身体的側面・心理的側面への影響. 第 45 回日本理学療法学会(学会特別号 37, P504)，岐阜，2010. 5.
- 19) 稲葉康子，柴喜崇，上出直人，芳賀博：中山間地域在住女性高齢者の膝痛による活動制限に関連する因子. 第 45 回日本理学療法学会（学会特別号 37, P504），岐阜，2010. 05.
- 20) Jin Yu, Naoakira Niino, feng Yu, Kyoko Shimada, Ayako Morita, Hiroshi Haga : Effectiveness of Positive Psychology Approach to Reduce Symptoms of Depression among Older Adults. 14th WPA International Congress, Beijing. Sept. 2010.
- 21) Ayako Morita, Jin Yu, feng Yu, Kyoko Shimada, Naoakira Niino, Hiroshi Haga: Successful Reduction of Anxiety among Community Older Adults through “Happy Program” .14th WPA International Congress, Beijing. Sept. 2010.
- 22) 三澤久恵，新野直明：外来受診者を対象とした地域高齢者のスピリチュアリティについて. 第 52 回日本老年社会科学会，大府，2010. 06.
- 23) 亀井智子，新野直明，他：都市部における多世代交流型デイプログラム継続参加高齢者への効果. 第 69 回日本公衆衛生学会総会，東京，2010. 10.
- 24) 梶井文子，新野直明，他：文子都市部在住高齢者における転倒骨折予防実践講座受講 3 ヶ月後の保健行動の変化. 第 69 回日本公衆衛生学会総会，東京，2010. 10.
- 25) 山本由子，新野直明，他：転倒骨折予防実践講座に参加した高齢者の身体的健康感と転倒リスクの関連. 第 69 回日本公衆衛生学会総会，東京，2010. 10.
- 26) Kazumi Kikuci & Hisao Osada : Dog ownership in Japan, creation of social capital within the community. The International Congress of 4th Asian Congress of Health Psychology, Taipei, Taiwan, 2010.08.27-31.
- 27) Fusako Ishihara & Hisao Osada : Resilience and Subjective Well-being among Community-Living Older Adults in Japan. The International Congress of 4th Asian Congress of Health Psychology, Taipei, Taiwan, 2010.08.27-31.
- 28) Hidemi Mori, Taichi Kishi, & Hisao Osada : Relationship between Codependent

Tendency, Burnout, LOC, Depression and Intension to Turnover among Nurses. The International Congress of 4th Asian Congress of Health Psychology, Taipei, Taiwan, 2010. 08. 27-31.

- 29) Takahashi R, Inoue Y, Maeda Y, & Osada H : Games which Japanese nurses think will help hospitalised children reduce stress but do not work as effectively as expected. European Health Psychology Society, Cluj, Romania, 2010. 09. 01-04.
- 30) 森本寛訓・神田有希恵・長田久雄：対人援助職の職業生活出来事と精神的状態との関連についての予備的分析. 日本心理学会第 74 回大会発表論文集, 日本心理学会, 大阪大学, 2010. 09. 20-22.
- 31) 齋藤崇志, 平野康之, 大森祐三子, 櫻井美津子, 大森豊, 渡辺修一郎：要介護高齢者の模擬的浴槽またぎ動作能力と身体機能の関係(第 1 報). 第 45 回日本理学療法学会, 岐阜, 2010. 05.
- 32) 深谷太郎, 藤原佳典, 齋藤京子, 金 憲経, 野中久美子, 安永正史, 桜井良太, 小川貴志子, 渡辺修一郎, 吉田裕人, 新開省二：地域高齢者における日常の温泉利用が QOL に与える影響—温泉利用型施設を活用する総合健康増進プログラム” すぷりんぐ” より (その 1) 一. 日本老年社会学会第 52 回大会, 2010. 06. 17.
- 33) 渡辺修一郎：都市部における中高年の社会的孤立者の生活と健康の実態と課題. 日本老年社会学会第 52 回大会, 2010. 06. 17.
- 34) 齋藤京子, 藤原佳典, 金憲経, 吉田裕人, 内田勇人, 小川貴志子, 荒木厚, 渡辺修一郎, 新開省二：温泉施設を活用する総合健康プログラムの開発—2. 介護予防. 第 52 回日本老年医学会学術集会, 2010. 06. 24.
- 35) 藤原佳典, 齋藤京子, 金憲経, 吉田裕人, 内田勇人, 小川貴志子, 荒木厚, 渡辺修一郎, 新開省二：温泉利用型施設を活用する総合健康プログラムの開発—1. 生活習慣病予防. 介護予防. 第 52 回日本老年医学会学術集会. 2010 年 6 月 24 日.
- 36) 田中治子, 渡辺修一郎 (口頭発表), 柴田博, 新野直明：介護老人福祉施設での人工栄養導入に関する IC の課題—施設・医師・看護師・家族へのアンケート調査から— 第 52 回日本老年医学会学術集会, 2010. 06. 24.
- 37) 渡辺修一郎：地域高齢者の栄養改善の介入試験. 第 52 回日本老年医学会学術集会, 2010. 06. 24.
- 38) 渡辺修一郎, 畠山明美, 梶忍：都市部における中高年の社会的孤立者の食生活の特徴. 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010. 10. 28.
- 39) 藤原佳典, 金憲経, 齋藤京子, 深谷太郎, 桜井良太, 野中久美子, 小林和成, 鈴木克彦, 渡辺修一郎, 小川貴志子, 吉田裕人, 岡部たづる, 干川なつみ, 土屋由美子, 新開省二：温泉施設を活用した複合的介入プログラム” すぷりんぐ” (1) —デザインと実行可能性— 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010. 10. 28.
- 40) 桜井良太, 藤原佳典, 金憲経, 齋藤京子, 深谷太郎, 安永正史, 野中久美子, 小林和

成, 渡辺修一郎, 小川貴志子, 吉田裕人, 岡部たづる, 干川なつみ, 土屋由美子, 新開省二: 温泉施設を活用した複合的介入プログラム” すぷりんぐ” (2) -介護予防効果の検証-. 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010. 10. 28.

- 41) Erika Kobayashi, Fukaya Taro, Hiroko Akiyama, Michiko Naoi & Jersey Liang: Exchanges in Financial and Non-Financial Support between Elderly Parents and Adult Children in Japan, GSA 63<sup>rd</sup> Scientific Meeting in New Orleans, 2010.
- 42) Emiko Saito, Chikako Kaneko, Shouzoh Ueki, Seiji Yasumura: The relationship between certification for long-term care need and social support among older adults by living arrangement. 14th East Asian Forum of Nursing Scholars, Feb 2011.
- 43) 植木章三: 高齢者のやる気・元気・いきいきで地域を救う～運動の心得. 第 5 回日本応用老年学会年次総会大会長講演, 仙台, 2010. 11.
- 44) 小谷尚克, 安村誠司, 植木章三・他: 「走ることができる」積極的主観的健康指標の可能性メタボを越えて, 次のポピュレーションアプローチのために. 第 5 回日本応用老年学会年次総会, 仙台, 2010 年 11 月.
- 45) 山崎幸子, 中野匡子, 斉藤恵美子, 植木章三, 渡辺幸子, 安村誠司: 地域高齢者のうつ状態の有無における新規要介護認定の関連要因, 第 52 回本老年社会学会大会, 愛知, 2010. 06.
- 46) 澤岡詩野: 都市部企業退職者のコミュニティ形成における ICT の可能性; 同系列企業の退職者集団『ダイヤネット』を事例として. 第 28 回日本都市社会学会大会, 2010. 09.
- 47) 澤岡詩野: 市民大学を起点としたまちづくりの担い手育成に関する研究; すぎなみ地域大学を事例として. 2010 年度日本建築学会大会, 北陸, 2010. 09.
- 48) 澤岡詩野・古谷野亘・本田亜起子: 日常的な交流における親族と非親族の間の階層的補完関係; 大都市のひとり暮らし後期高齢者の調査から. 第 52 回本老年社会学会大会, 愛知, 2010. 06.
- 49) 荒井浩道・袖井孝子・澤岡詩野・森やす子・鈴木昭男: 中高年者の ICT 利用に関する質的研究; テキストマイニングによるグループインタビューの分析から. 第 52 回本老年社会学会大会, 愛知, 2010. 06.
- 50) 古谷野亘・澤岡詩野・本田亜起子: 住民基本台帳上の一人暮らし後期高齢者; 同居者がいる一人暮らし高齢者. 第 52 回本老年社会学会大会, 愛知, 2010. 06.
- 51) 畠山莉絵, 柴喜崇, 荻野裕, 高瀬幸: パーキンソン病患者の主介護者における介護負担の変化一二年間の追跡調査一. 理学療法学 (学会特別号 37, P1184), 岐阜, 2010.
- 52) 小山雄大, 柴喜崇, 小牧隼人: 大腿四頭筋の筋力増強法に適した Closed Kinetic Chain 種目. 理学療法学 (学会特別号 37, P1342), 岐阜, 2010.
- 53) 植田拓也, 柴喜崇, 安齋紗保理: 地域在住高齢者における円背進行予防トレーニングの開発一予備的研究一. 理学療法学 (学会特別号 37, P1182), 岐阜, 2010.

- 54) 新井健司, 柴喜崇, 安藤誠, 柴田博: 継続的な訪問リハビリテーションが主介護者の抑うつに与える影響—ストレスプロセスモデルの観点から—. 第 5 回日本応用老年学会年次総会, 仙台, 2010. 11. 06.
- 55) 石毛里美, 柴喜崇, 上出直人, 大塚美保, 隅田祥子: 地域在住虚弱高齢者の身体活動セルフ・エフィカシー向上のための取り組み. 第 52 回本老年社会科学大会 (日本老年社会科学会第 52 回大会報告要旨号 32(2), P207) , 愛知, 2010. 06.
- 56) 望月久, 大森圭貢, 小笹佳史, 笠原剛敏, 菊本東陽, 佐藤信一, 柴喜崇, 増本正太郎: パーキンソン病に対する理学療法の帰結評価指標調査. 第 7 回 神経系理学療法研究部会学術集会 第 7 回日本理学療法士協会神経系理学療法研究部会学術集会, 池袋, 2010. 12. 4-5.
- 57) 三澤久恵, 新野直明: 外来受診者を対象とした地域高齢者のスピリチュアリティの特徴とその効果. 第 3 回日本スピリチュアルケア学会, 札幌, 2010.
- 58) 三澤久恵, 野尻雅美, 新野直明, 島田陽子: 地域高齢者のスピリチュアリティの特徴と関連要因の検討. 第 20 回日本健康医学会, 京都, 2010.
- 59) 兪今, 咸永煥, 兪峰, 安順姫, 張慶稿: 中国東北農村地域住民における生活習慣病の危険因子および自覚症状. 第 75 回民族衛生学会総会, 札幌, 2010.
- 60) 兪今, 島田今日子, 兪峰, 新野直明: 高齢者におけるうつ予防プログラムの介入方法の確立およびその効果. 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010.
- 61) 森田彩子, 兪今, 兪峰: 閉じこもり解消に向けた運動機能向上プログラムの有効性. 第 69 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2010.
- 62) 上野佳代, 菊池和美, 長田久雄: 老人福祉センターでの過ごし方が利用継続に与える影響. 第 52 回日本老年社会科学会 (老年社会科学 32 (2) P180), 大府, 2010. 06.
- 63) 日下倫子, 菊池和美, 長田久雄, 上野佳代: 「犬の散歩」を通じた高齢者の地域における社会関係形成の意味 フィールドワーク手法を用いた質的検討. 第 52 回日本老年社会科学会 (老年社会科学 32 (2) P159), 大府, 2010. 06.
- 64) 小浦さい子, 杉澤秀博: 特別養護老人ホームで働く介護職員の食事介助における心理過程 嚥下障害を伴う入居者の食事介助を通して. 第 52 回日本老年社会科学会 (老年社会科学 32 (2) P236), 大府, 2010. 06.
- 65) 堀内裕子, 柴田 博, 渡辺修一郎, 芳賀 博: 企業における高齢者関連の社会貢献活動—現状と今後の課題—. 第五回日本応用老年学会総会, 仙台市, 2010. 11. 6.
- 66) 前田志名子, 大瀧文実: デイサービス事業所における 1 年間の「昼食後の口ゆすぎ」の効果. 第 23 回日本保健福祉学会学術集会, 2010.
- 67) 武田美津代, 中山久美子, 桑野タイ子, 前田志名子: 125 事例「経験知」の検討(第 2 報), 第 9 回日本看護技術学会, 2010.